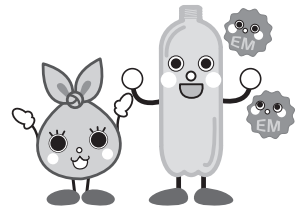


飛騨市の エコだより 第44回 ペットボトルの行方



ペットボトルの行方

ペットボトルは軽くて丈夫な飲料用の容器として、最近ではすっかり生活の中に定着した感じがあります。

ペットボトルのペット（PET）は合成樹脂である「ポリエチレンテレフタレート」の略です。同じ材質で出来ているため、分別して回収するとリサイクルをし易くなります。リサイクルの過程の中で不純物を取り除き、再度PETボトル材料として使用したり、化学繊維として洋服やカーペットなどにリサイクルされています。

飛騨市内で回収された年間約50トンのPETボトルは、市内の民間工場で異物の除去や圧縮梱包をした後、富山県のリサイクル施設において粉碎機でフレーク状にされ、製品の原料となります。

皆さんに、きれいに洗って出していただいている為、リサイクル原料としての利用価値が高く、リサイクル施設からは高い評価を受けています。

☆ペットボトルの出し方

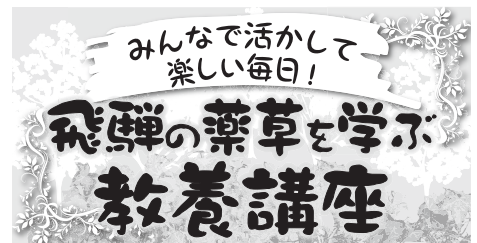
ペットボトルのラベルには



このマークがついています。

- ①ラベル、キャップを取ってください。（リングはそのままでかまいません）
- ②中を水洗いし、水を切ってください。
- ③茶渋や塗料などが付いたものは、その部分を切り取ってください。
- ④ボトルの色で分別する必要はありません。

問 環境課 ☎ 0577-73-7482



薬草と呼ばれる有用植物は、飛騨市古川町だけでも240種類以上が確認されています。

現在、各団体が、この市内に豊富に自生する有用植物の活用模索を行っています。

市役所でも、有志職員による事業連携推進会議「やくだち隊」メンバーが、市民の皆さんが毎日元気で楽しく過ごせるよう、講演や研修などを通じて「有用植物」の素晴らしさを広める活動を行っています。

また、熊本県崇城大学の村上光太郎先生にご指導いただきながら活動を進める中で、熊本県玉名市や、徳島県上勝町とも交流と連携を深めることができ、飛騨市と他の地域をつなぐネットワークが広がっています。

この素晴らしい「宝物」である有用植物をより多くの皆さんに知ってもらうため、来月からはその紹介をしていきます。



▲村上先生による講演



▲熊本県玉名市との勉強会